

令和6(2024)年度コミュニティ・スクール推進研修②実施報告

実施日：令和6（2024）年9月20日（金）

◎ 本研修では、教職員と地域住民が学校運営に協力・参画することで、教育に対する課題や目標を共有し、一体となって児童・生徒を育む学校づくりを推進するために必要な知識や技能の習得を図ります。第2回は、熟議の重要性を体験的に学ぶというテーマで44名の方が御参加くださいました。

○ 演習「学校運営協議会をうまく運営するポイント①」 ～熟議の重要性を体験的に学ぶ～ 総合教育センター職員

・説明「熟議とは？」「熟議の進め方について」

熟議についてとその進め方について説明がありました。熟議は、学校運営協議会で課題・目標・ビジョンの共有を行う際に用いられる手法の一つで、熟議を繰り返すことにより参加者の当事者意識が高まり、相互理解や信頼関係を深めることにつながられます。そこで、受講者が関わる学校運営協議会で熟議の手法を活用できるように、熟議の様子を撮影した映像を通してイメージをもってもらいました。映像では、実際に行っている様子を示しながら、それぞれの場面でのポイントについて説明がありました。ねらい・テーマやゴールの共有が大切であること、グループで考えを1つに絞っていくプロセスが熟議の肝となることなど、熟議を進めていく上でのポイントを映像と共に明示しました。受講者は、後半の熟議体験に生かせるように熟議のポイントを真剣にメモしていました。



・演習「熟議体験」

受講者はグループごとに熟議体験を行いました。「地域の防災力を高めるためには」というテーマの基、課題を解決するために学校と地域が協力してできることを考えるというゴールに向けて熟議を実施しました。

自己紹介タイムでは、名前・学校名・役職と共に、「3. 11 あの日自分は・・・」というテーマで東日本大震災の時にしていたことを伝え合いました。その後、それぞれの地域の防災に関する課題を共有しました。課題と感じていることを付箋に書き、自分の考えを発表しながら模造紙に貼っていきました。そして、課題を解決するために学校と地域が協力してできる取組について話し合いました。話し合いでは、「学校と地域が一緒に避難訓練を行う」「避難所運営体験を地域と学校で共催する」「生徒と地域の人とで、備蓄の食材を使った料理教室を行う」などの具体策が多く出て、活発な熟議となりました。最後に、ワールドカフェ形式で全体での共有を行いました。この体験での学びを活かした熟議を行うことで、参加者の当事者意識が高まり、よりよい話し合いができるのではないかと期待しています。



★ 受講者の声 ★

- ・様々な立場の人間が考えや思いを述べたり、聞いたりすることはとても大切なことだと思います。その上で様々な具体的な活動に結びつけられたらいいと思います。
- ・熟議の流れ、ポイント、メンバー構成の工夫など具体的な方法が分かり、令和7年度導入に向け参考になりました。
- ・テーマから解決策にしばっていくことが大切であると感じました。自分の意見を出すことで自分事としてとらえることができました。